

レベル	事故例
7 深刻な事故	旧ソ連・チェルノブイリ原発事故（1986年） 日本・福島第一原発事故（2011年）
6 大事故	平成23年4月12日にレベル7と暫定評価
5 広範囲な影響を伴う事故	英国・ウインズケール原子炉事故（1957年） 米国・スリーマイル島発電所事故（1979年）
4 局所的な影響を伴う事故	日本・JCO臨界事故（1999年） フランス・サンローラン発電所事故（1980年）
3 重大な異常事象	スペイン・バンデロス発電所火災事象（1989年）
2 異常事象	日本・美浜発電所2号機蒸気発生器伝熱管損傷事象（1991年）
1 逸脱	日本・「もんじゅ」ナトリウム漏れ事故（1995年） 日本・敦賀発電所2号機1次冷却材漏れ（1999年） 日本・浜岡発電所1号機余熱除去系配管破断（2001年） 日本・美浜原子力発電所3号機2次系配管破損事故（2004年）
0 尺度未済	（安全上重要ではない事象）
評価対象外	（安全に関係しない事象）

事故
異常な事象
尺度未済

INES（国際原子力・放射線事象評価尺度）とは、原子力発電所などの事故・トラブルについて、それが安全上どの程度のものかを表す国際的な指標です。

福島第一原発事故とチェルノブイリ原発事故の INES 評価は同じレベル7ですが、大気への放射性物質の放出量を比べると、福島第一原発事故はチェルノブイリ原発事故の約1割程度と見込まれています。チェルノブイリ原発事故で放出された放射性物質量はヨウ素換算で520万テラベクレル、福島第一原発事故では、77万テラベクレル（原子力安全・保安院、2011（平成23）年6月6日発表）あるいは57万テラベクレル（原子力安全委員会、2011（平成23）年8月24日発表）と推定されています。ちなみに、テラベクレルは1兆（ 10^{12} ）ベクレルです。

本資料への収録日：2013年3月31日

関連 Q&A

- ・2章 QA2 福島第一原発事故とチェルノブイリ原発事故とでは、影響の度合いは違うのですか
- ・2章 QA3 福島第一原発事故は、国際原子力事象評価尺度で「レベル7」ですが、チェルノブイリと同じ深刻度の事故ということですか
- ・2章 QA4 福島第一原発事故は、国際原子力事象評価尺度で「レベル7」ですが、放射性物質放出の仕方は、チェルノブイリと違うのですか